

婦人科検診 結果解説

婦人科検診（子宮がん検診・婦人科関連疾患）

内診

内診では、帯下（おりもの）異常、外陰部の異常、膣炎、子宮脱、子宮頸管ポリープなどの視診でわかる疾患をチェックしています。

子宮頸部細胞診

子宮頸がんの検査です。子宮頸部を擦過し採取した細胞を細かく観察します。悪性化する何段階も前から知らせることで、がんになる前に治療することを目指しています。また、当センターでは精度の高い液状化検体細胞診(LBC)を採用しています。

ハイリスク HPV検査

子宮頸がんの原因となるウイルスが活動性をもって存在しているかを調べる検査です。ウイルスの詳細については下記をお読みください。

<子宮頸部細胞診結果 ベセスダ分類>

NILM	異常なし
ASC-US	異形成の疑いがあります
ASC-H	中等度異形成～上皮内がんを疑います
LSIL	軽度異形成病変
HSIL	中等度異形成～上皮内癌の可能性ががあります
SCC・AGC	子宮頸部の悪性病変の可能性ががあります



子宮体部細胞診

子宮体がんの検査です。子宮の奥の内膜細胞を採取し診断します。陰性・擬陽性・陽性で判定されます。出産経験の有無、閉経後などの様々な条件により検査が難しく、採取できた細胞が少なかった場合などに判定不能という結果で再検査が必要となる場合があります。

経膣超音波

膣内から超音波を当て、子宮、卵巣や骨盤内の観察を行います。子宮や卵巣の腫瘍性病変や異常所見がないかを確認し、良性から悪性までの婦人科疾患の存在をチェックしています。膀胱の状態も観察ができ、排尿障害についてもわかることがあります。

ハイリスクHPVってなに？

HPV(ヒトパピローマウイルス)とは、主に疣贅(いぼ)などを引き起こす100種類ほどあるウイルスで、**身近な環境にどこにでも存在しています**。その中で**子宮頸がんに関係する約13種類を『ハイリスクHPV』**といいます。

ハイリスクHPV検査では、子宮頸がんの原因の9割はHPV16・HPV18によると言われ、これら2種とその他の『HPV16・HPV18・HPVその他』の3パターンについて調べ、陽性が陰性でお知らせしています。性交渉の経験があれば**ほとんどの人が感染する**といわれており、だれもが一時的には感染することがあるため、**感染＝子宮頸がん発症というわけではありません**。たいていの場合、ウイルスは自身の免疫で不活性化されます。このため、ウイルスが陽性であった場合にも、細胞診で異常がなければ継続的な検診でよいとされます。両検査を受けた方には総合的に判定を行います。細胞診でASC-USとなった方は精密検査として保険診療でHPV検査が行われます。

【女性診療科（婦人科）のご案内】

検診結果が異常なしでも治療が必要なことがあります

婦人科で取り扱う内容は、必ずしも画像検査や血液検査ではっきりするものばかりではありません。

月経痛や月経過多、月経困難症状、月経前症候群、月経不順、更年期症状など、検査結果に異常がなくても、症状で診断や治療を行うことが大切な疾患が多くあります。今回の検診をきっかけに、気になる症状は婦人科ご相談ください。

麻生総合病院 女性診療科（婦人科） 火曜日・木曜日 午前

担当医師 菅 裕佳子

日本産科婦人科学会 産婦人科専門医
日本女性医学会 女性ヘルスケア専門医



麻生総合病院
女性診療科ホームページ



医師による**検診結果の説明・乳房超音波検査**のご予約
健診センターに関するお問い合わせは

総生会健診センター

お問い合わせ専用電話 **044-981-6863**

受付時間
9:00～17:00
月曜日～土曜日
(日曜・祝日を除く)

麻生総合病院 女性診療科（婦人科・乳腺外科）
のご予約は

麻生総合病院 予約センター

ご予約専用電話 **044-987-3293**